

れきみん となん歴民だより

vol.80

令和7年3月31日発行

盛岡市都南歴史民俗資料館

■収蔵資料展 旧暦ひなまつり展 開催のお知らせ

当館では、旧暦の3月3日に合わせてひなまつり展を開催しています。今年は、花巻人形をメインにした展示です。

都南地域でも桃の節句に人形を飾る風習がありましたが、豪華な衣装と調度品の揃った享保ひなや古今ひなは少数で、多くの家庭では土を焼いて作った素朴な花巻人形を飾りました。

各家ではおひな様に白酒（もち米と米麴^{こうじ}を原料にした甘いお酒）・甘酒・花饅頭^{まんじゅう}・あられ・きりせんしょなどを供えました。子どもたちは連れだって各家のおひな様を見て歩き、甘酒や花饅頭をもらいました。（『都南村誌』）

本展では、花巻人形や花饅頭の型を展示し、都南地域のひな祭りの様子を紹介します。あわせて現代のひな人形も飾ります。昔も今も変わらない、女の子の成長と幸福を祈る家族の願いが伝わります。

※ 展示資料には花巻人形以外に相良人形（山形県米沢市）や堤人形（宮城県仙台市）も含まれています。



花巻人形
犬と童子
（当館蔵）



昔の下湯沢地区のひな祭りスケジュール

下湯沢高齢者学級・同老人クラブ『生活記録集 昔の農家とくらし』（昭和63年）より

- 2月27・28日頃～ ひな人形を飾りつける
- 3月1～2日頃 あられ、花饅頭、きりせんしょ作り
- 3月2日夕方 菱餅^{ひしもち}を作り、供える。夕食に餅のごちそうを食べる。
- 3月3日 焼き魚、尾頭付きニシン、あさつきの酢味噌和えなど5品くらいのごちそうが出された。
たくあん^{おかし}の蓋明け（初めて食べる）をする。お吸い物はにら卵、白酒、メメコ酒（お酒に柳の芽を入れたもの）で、女の子はお相伴^{しょうばん}（付き合っ一緒に飲食）する。



花饅頭の型（当館蔵）

大ヶ生金山の思い出

○大ヶ生から矢巾駅まで鉄索（架空索道。ロープウエー）があったのです。鉄索は見事なもので、山から山、平野から川を越えて平地へと何十本もの高い鉄塔を立て、鉄塔と鉄塔の間には太い鉄のワイヤーロープをはり、そのロープには何十もの大きなバケツが取り付けられました。バケツには鉱石をたくさん積んで大ヶ生から矢巾駅に向けて送り、矢巾駅からは空のバケツが返ってきました。矢巾駅で鉱石の積み出しをしていたのです。

○昭和9年（1934）か10年頃だと思います。金の精錬所が出来ました。その大きな建物で金の鉱石をくだき、機械で金を取り出したのです。金山や精錬所で働く人たちのために大きな長屋も建てられ、大ヶ生は人の出入りも多くなり、役人や会社の偉い人達が、ハイヤー（自家用車）を乗り回しました。

○精錬所の下には、大きな道場も建ちました。秋になると2日間もお祭りがあって、相撲、踊り、夜は道場で映画が催され、にぎやかなもので、楽しみでたまらなかったとのこと。

出典：都南村歴史民俗資料館『都南の民話』1985年

ゆかりの史跡 まんじゅうこうあと 萬寿坑跡

大ヶ生金山の坑道のひとつ。見学可能。黒森山虫壁コース登山口が近くにあるのであわせて歩いてみては。



盛岡市大ヶ生 17 地割
駐車場あり

== 見て さわって 動かして 深まる学習 ==

～昔の暮らしを知る 盛岡市都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品～

★令和6年度 第4回 照明器具「行灯(あんどん)」

江戸時代に普及し始めた照明具の「行灯(あんどん)」。行灯は木などで作られた枠に風よけの和紙を張ったものです。字のとおり、初期は夜に外出するときの明かりでしたが、提灯(ちょうちん)にとって代われ、室内で使われるようになっていきました。燃料は植物油や魚油などが使われましたが、安く手に入る魚油は燃やすと煙とにおいが激しかったそうです。石油ランプが普及し始めた明治のころから行灯は姿を消していきますが、地方の農村では明治後半でもろうそくを使って行灯を使用していました。

当館には高さ26cmから82cmまで全部で7基の行灯と、行灯に張られた3種類の行灯絵が展示してあります。当館のような小さな資料館にもこれだけの数が集まるということは、多くの家庭に普及していたことを表しています。



大小の行灯



行灯の絵（七福神）

明治のころまで農村では、明かりのない家も多かったといえます。一日の活動時間は日の出から日没まで。自然に寄り添った形での生活には、照明もそれほど必要なかったのかもしれませんが。たくさんの照明の中で夜も活動する現代人は果たして幸せなのでしょうか。考えさせられます。

参考文献：岩井宏實『日本の生活道具百科』河出書房新社

となん歴史民だより vol.80
令和7年3月31日
盛岡市都南歴史民俗資料館 発行

岩手県盛岡市湯沢1-1-38（都南つどいの森を目印にお越しください）

TEL/FAX 019-638-7228

時間 9:00～16:00

休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)

入館料 無料